

令和2年3月2日 厚生委員会(福祉保健局)

○**小林委員** まず初めに、福祉保健局の皆様には、新型コロナウイルス感染症対策に連日連夜ご対応いただいておりますことに改めて敬意を表し、感謝を申し上げたいと思います。日々刻々と変わる状況の対応に、肉体的にも精神的にも酷使をされているかと思いますが、くれぐれも健康管理にご注意をいただければというふうに思います。

このたびの令和元年度補正予算は、令和二年度補正予算にも続く、喫緊に対応すべき対策のための重要な予算であると思います。私の方からは、重複した質問は避けまして、既に取り組んでおられることについても、確認のため端的にお伺いをさせていただきます。

まず、相談体制の確保についてですが、まずは都民の不安の声を聞き、少しでも不安を解消していくことや予防対策を講じていただくこと、また適切な医療につなげていくことは、感染拡大を抑制する上で大変重要であります。

こうした対応をしていくため、相談窓口としてコールセンターが設置されて一カ月が経過をいたしました。先ほど相談件数等についてはご答弁いただきましたが、主な相談内容についてお伺いをいたします。

○**吉田感染症危機管理担当部長** 主な相談内容といたしましては、熱やせきが出ているが感染しているのではないかとといった感染不安や、手洗いや消毒の方法を教えてくださいといった具体的な予防方法、流行地域からの旅行者、帰国者との接触に関することなどでございます。

○**小林委員** 発熱やせきなど症状がある都民の方の不安は大きいと思います。

発症している方の相談をしっかりと受けとめ、適正な医療機関につなぐことが今極めて重要であります。発症している方の相談はどのように受けて、また医療機関につないでいるのか、また、そのような医療機関は都内にどのぐらいあるのかお伺いをいたします。

○**吉田感染症危機管理担当部長** 国が示している相談の目安においては、風邪の症状や三十七度五分以上の発熱が四日以上続いている方、強いだるさや息苦しさがある方、これらの症状が二日程度続いている高齢者や基礎疾患等がある方について、保健所等に設置しております新型コロナ受診相談窓口をご案内しております。

相談の結果、新型コロナウイルス感染の疑いがある場合には、専門の新型コロナ外来への受診につなぎ、医師の総合的な判断などを踏まえ、都が検査を実施しております。

新型コロナ外来は、新型コロナウイルス感染症の患者の診療が可能な感染症診療協力医療機関でございまして、現在都内に七十三施設確保してございます。

○**小林委員** 先ほどご答弁もありましたので質問は割愛をさせていただきますが、検査体制については、先ほどもお話がありましたが、一部報道などで、発熱や肺炎の症状があるのにウイルス検査を受けられないなどの声が医療関係者などから上がっているとの指摘もあるようでございますけれども、また今後、しっかりとそうした医療体制の充実は、さらに充実に努めていただくよう要望させていただきます。

次に、検査の結果が陽性となった患者さんは、感染が拡大しないよう感染症予防対策の整った

医療機関でケアを受けることになるかと思いますが、検査の結果、陽性になった患者さんへの対応はどのようにされているのか、また、ケアを行う医療機関は都内にどのくらいあるのかお伺いいたします。

○吉田感染症危機管理担当部長 検査で新型コロナウイルスに感染していることが判明した場合、保健所は感染症法に基づき入院勧告を行い、感染症指定医療機関十二施設など、感染症医療を適切に提供できる医療機関において入院治療をお受けいただいております。

なお、入院勧告を行った際には、応急入院後七十二時間以内に保健所に置かれております感染症の診査に関する協議会を開催いたしましてご意見をいただくこととなっております。

この協議会は、感染症指定医療機関の医師、感染症の患者の医療に関する学識経験者、法律に関する学識経験者等の委員で構成されてございまして、感染症の蔓延防止や人権尊重の観点から、入院勧告の妥当性について審査をいただいております。

○小林委員 先日、国が示した新型コロナウイルス感染症対策の基本方針では、まさに今が、今後の国内での健康被害を最小限に抑える上で極めて重要な時期であるとされています。

私ども都議会公明党は、先週の代表質問、また一般質問を通じて、相談体制の強化、医療体制の整備、また中小零細企業への支援、高齢者施設や学校現場への支援などを主張してきましたが、状況は日々刻々と変化をしております。

今後とも、私たちは対策強化に向け、さらに全力で取り組んでまいりたい決意ですので、都としても迅速に、また着実に、的確に、感染拡大防止に取り組んでいただくよう要望いたしまして、質問を終わります。